

経腸栄養法に関する感染対策

井上善文

- 1 経腸栄養チューブ留置に関連した感染対策
 - 1.1 経鼻チューブ留置時の副鼻腔炎や中耳炎の予防
 - 1.1.1 5～12F の口径の経腸栄養専用チューブを用いる方が良い。457, 458, 459 (ⅢB)
 - 1.1.2 長期留置の場合は胃瘻・腸瘻へ変更する方が良い。(ⅢC)
 - 1.2 経鼻チューブ挿入時の気管内誤挿入の予防
 - 1.2.1 経腸栄養用経鼻チューブ挿入後には先端位置を X 線撮影で確認する。460, 461, 462, 463, 464 (ⅢA)
 - 1.3 胃瘻造設に関連した瘻孔部感染予防対策
 - 1.3.1 咽頭部の細菌を胃瘻造設部に定着させない工夫、ストッパーによる胃壁に対する過度の圧迫を避ける工夫を実施する方が良い。465 (ⅢB)
 - 1.3.2 胃瘻周囲の状態を毎日観察し、清潔な状態を保つ。466 (ⅢB)
- 2 細菌性腸炎予防対策
 - 2.1 経腸栄養剤調製時の注意点
 - 2.1.1 感染予防のためには、バッグ型:RTH (Ready-To-Hang) 製剤を用いる方が良い。467, 468, 469, 470, 471 (ⅡB)
 - 2.1.2 調製する必要がある経腸栄養剤は、投与直前に調製する方が良い。472 (ⅡB)
 - 2.1.3 経腸栄養剤を調製後、投与までに時間がある場合は冷蔵庫内に保存する方が良い。(ⅢB)
 - 2.1.4 開封した後、冷蔵していない状態で 8 時間以上経過したものは廃棄する方が良い。473 (ⅢB)
 - 2.2 経腸栄養剤投与時の注意点
 - 2.2.1 溶解・希釈を行う製剤では 8 時間以内に、RTH 製剤では 24 時間以内に投与を完了する。474, 475, 476, 477 (ⅡA)
 - 2.2.2 経腸栄養剤投与容器は使用のたびに洗浄・消毒し、経腸栄養剤の注ぎ足しをしない方が良い。478, 479 (ⅢB)
 - 2.2.3 経腸栄養投与ラインは、使用するたびに洗浄・消毒を行う方が良い。480, 481, 482, 483, 484 (ⅢB)
 - 2.2.4 空腸瘻から経腸栄養剤を投与する場合は、胃瘻を介した場合よりも厳重な清潔操作を行う方が良い。485, 486 (ⅢB)
- 3 誤嚥性肺炎防止対策